

栗原版

〈築館支局〉

もっとも弱い人のために

栗原市で 発会式 重症心身障害児(者)を守る会

「栗原市重症心身障害児(者)を守る会」の発会式が二十一日、栗原市築館の農村環境改善センターで開かれた。写真Ⅱ。

昨年十月、栗原市内で宮城県の実証心身障害児者を守る会の交流会が開かれたのをきっかけに、関係者によって栗原市での「守る会」発足の準備が続けられこの日を迎えた。正式には、全国組織の「全国重症心身障害児(者)を守る会」の宮城県支部栗原分会で、会員八人でのスタート。

発会式では、「宮城県守る会」の秋元利通会長が「重症心身障害児(者)は三千人に二人の出現率といわれます。地域で当たり前前に暮らせるためには、医療体制の整備や市町村における理解が急務。深い理解と厚いご支援をお願いします」とあいさつ。また、「栗原市守る会」の曾根紀元会長は「栗原市に暮らす子どもたちのために、何ができるのか、何かせずにはいられない。そんな思いで分会は発足しました」などと述べた。

来賓祝辞などに続いて、尚絅女子短大非常勤講師で県の「守る会」参加の阿部幸泰氏が「地域における重症心身障害児・者の福祉の現状と未来」と題して記念講演した。

「守る会」はその活動理念として「もっとも弱いものを二人ももれなく守る」を活動理念としているが、阿部氏は「地域で共に生きる社会」の実現には、地域の福祉資源を利用することだけでなく、地域の方々(親も含め)が共に生活する地



地域社会の構築と意識改革こそが必要」などと呼びかけた。